

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4073500284		
法人名	医療法人 恵真会		
事業所名	グループホームめぐみ (Bユニット)		
所在地	福岡県糸島市志登567番地1		
自己評価作成日	平成25年6月1日	評価結果確定日	平成25年8月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成25年6月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

設立10年を経過した「グループホームめぐみ」は、設立当初からの理念である「みんな仲良く心豊かな生活」が継続できるようサポートしています。それにより利用者の方と職員の信頼関係が構築されており、又、利用者同士も馴染みの顔となって、お互いを励まし合い穏やかな日々を過ごされている。ペランダには、季節の花や野菜を利用者と一緒に植え、収穫の喜びや季節を肌で感じて頂けるよう季節行事にも力を入れ取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見慣れた景色の中で、地域との関わりのある生活を送って頂きたいと職員全体で作上げた理念である。毎朝の申し送り時、全員で唱和し、理念を念頭に入れ日々のケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に保育園児の慰問を設けたり、校区の文化祭に作品を出展し見学にも行っている。又、隣接している老健との合同行事“あじさい祭り”で地域の方々にも参加して頂き、フリーマーケットバザーを開催し交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に発行しているめぐみ便り等で「お困りの事などありましたら御相談下さい。」と呼びかけており、あじさい祭り時見学会を開催し、地域の文化祭にもパンフレット・めぐみ便り等出展させてもらっている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価・家族アンケートの結果報告や年間事故報告を行い、敬老会・消防署立会いの避難訓練等の行事にも参加して頂き、その都度意見を頂戴しサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	重要案件がある場合は、市に直接出向いたり電話で相談している。運営推進会議の案内は必ず出している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	老健と合同の全体勉強会やホーム内での勉強会を必ず行い、身体拘束についてのマニュアルを作成しているの、職員全体が理解している。但し環境的に交通量が多い為玄関に施錠している。これに関しては、家族の希望でもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やホームでの勉強会を必ず設け、虐待防止マニュアルも作成している。虐待防止に対する意義は全職員が理解している為、虐待はない。	

25.年B自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修・ホーム内での勉強会を必ず開催している。御家族の方には必ず入居時に口頭・文章で説明している。但し活用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に文章や口頭で必ず説明を行い、改定時には家族会で文章と口頭で説明している。又、入居期間が長くなる利用者の方とは、面会時等に個々に疑問点等をお聞きし、その都度対応するようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットに意見箱を設置している。利用者の方には日々のコミュニケーションやケアプラン立案時間取り調査にて要望をお聞きしたり、家族会時に一人ひとり意見を頂戴し要望に応える対応を行っている。又、年1回アンケートを行い、結果報告を家族会、運営推進会議にて報告、検討している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、職員会議を行い、意見を出し合い話し合いを行っている。皆の賛同があれば、直ぐに実行している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の働きやすい職場環境作りに努めている。職員個々の得意分野を活かした役割分担に努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用は本部が行っているが、ホームの主任、管理者の意見を重視している。職員の特徴(園芸・お菓子作り・ドライブ等)を活かせるように担当を決め、レクレーションにも取り入れ、職員と入居者共同で行っている。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修やホーム内での勉強会を行い、認識や理解が出来るよう接遇目標等にも取り入れ毎朝唱和している。		

25.年B自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加出来る様に努めている。職員個々と個人面談を行い、直接意見を聞く機会を設けている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会の集まりに参加し、情報交換、問題点の共有、研修の実施等、ホーム間の交流に取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジメントするにあたって、センター方式を利用しており聞き取り調査を実施している。意思表示の困難な方については密にコミュニケーションを図り信頼関係を構築している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時御家族の意向を十分に傾聴し、面会時や状況変化時等、その都度情報報告を行い信頼関係を築いている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面接時、生活暦を伺い御本人に直接要望等を聞くようにしている。又、御家族の方とは密に連絡を取り、より必要なサービスが提供できるように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の方の身体状況に応じて、スタッフと共に出来る役割を持って頂き、自分を必要とされている喜びを感じて頂くようにしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅要求が激しい方等には、家族の協力を得ホームまで来ていただいたり、電話等で話をして頂いている。又、定期受診・急変時等は必ず同行して頂いている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の了解を得て、地域の老人会の方や知人の方にも面会に来て頂いている。又、ドライブで出かけた際に自宅に立ち寄り、自宅付近まで行っている。		

25.年B自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話が合う利用者同士を同じテーブルにしている為、お互いに励まされている光景がある。又、何年も同じ方と一緒にテーブルにする等配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退所された方や併設の老健に入所された方の御見舞いに行ったりしている。又、御家族とお会いした時にはお話をさせて頂き、いつでも相談に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思の疎通が図れる方には要望等をお聞きしている。困難な方に対しては、日常の様子観察を行い、御本人の立場にたったニーズを考えている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境等を必ずアセスメントしている。又、居宅のケアマネの方と情報交換している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を全員が把握出来るように介護記録をきちんと取り、申し送りにて情報を共有し、状況に応じた対応をスタッフ全員が行うようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医と情報交換を行い、御本人御家族の要望を踏まえて、毎月全職員でカンファレンスを行い状況に即したケアプランを立てている。		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は、御本人の言動をきちんと記録し朝・夕の申し送りや、スタッフが個人個人で読み、現状を把握し日々のケアに取り組んでいる。		

25.年B自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて入浴方法を考慮したり、昼寝を取り入れたりその時のニーズに合わせてケアに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に消防署と連携して避難訓練を行っており、民生委員の方のオカリナ演奏や保育園の慰問を定期的に受けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの主治医がおり、家族同行の受診や往診を定期的にして頂いている。緊急時には御家族・職員が同行するようにしている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携による看護師やホーム内の看護師がお一人ひとりの状況を報告し助言をもらって迅速に対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院側と情報交換に努めると共に連携を図っている。病院側より早期退院の依頼をされた時は、直ぐに受入を行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の方向性についてアンケートを頂いている。又、状態変化時には御家族の方と今後の方向性についてカンファレンスを行っている。		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修やホームの勉強会・会議等で急変時の対応が出来るよう、それぞれの職員が意識を持っている。又、マニュアルがある。		

25.年B自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2ヶ月毎に消防署と連携し、避難訓練を実施している。又、年1回消防署立会いの下、運営推進会議の委員の方も参加して頂き訓練を行なっている。外部研修で防災センターの研修を受けている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月接遇目標を掲げ、目標に対して反省を記載している。その為、職員全員が接遇に対して意識を持ちプライバシーを尊重したケアを行なっている。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、利用者の方に自己決定を促す言葉掛けをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活を送って頂く様何事に対しても無理強いせず、好きな様に過ごしてもらっている。又、ケアプランに沿って支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隣接している老健の理美容を利用して頂いている。又、行きつけの美容室に行かれる方もいる。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物を御家族に頂く事があり献立に取り入れている。又、利用者の方の能力に応じて食器洗いや後片付け等をして頂いている。		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスにおいては、献立を外部業者の管理栄養士に依頼している。それぞれの状況に応じて水分チェック表を作成したり、食器の大きさを替えたりしている。		

25.年B自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕口腔ケアを行なっている。状況に応じたケアを行なっている。義歯使用の方には洗浄剤等を使用している。ハブラシは週1回消毒している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレで排泄出来るよう、時間や利用者の表情・行動を見て、定期的にトイレ誘導を行なっている。排泄の記録もしている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防として牛乳や好きなジュース等個々に合った水分を提供している。又、腹部マッサージ等を行ない排便コントロールに努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、無理強いないようにしている。又、拒否された方には清拭を行っている。季節に応じて柚子風呂等を楽しんでもらっている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人ひとりの生活のリズムを尊重し休息は自由にして頂いている。室温・水分補給にも配慮良眠出来るように環境を整えている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに薬説明書を綴っており、薬の変更があった場合、申し送りノートに記入し、全職員が把握出来るようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗い・テーブル拭き等利用者の出来る事を役割に持って頂き、コーヒーも自分で作って頂いたり、コーラーを希望の方にはコーラーを買ってきて御渡ししたりして、楽しみの支援を行っている。		

25.年B自己・外部評価表(GHめぐみ)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1日の状況に応じて散歩やドライブに出かけている。又、家族の方の協力を得て、普段行けない様な場所に行けるよう支援している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金に関しては御本人・御家族の意向を尊重している。又、バスハイク等で買い物の支援を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の携帯電話で直接話されるような支援をしている。又、玄関に公衆電話を設置している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節に努め、光やベランダの花を眺められるようテーブルの配置を考慮し、快適に過ごして頂けるよう環境を作っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓テーブルは気の合う方を同席にしている。廊下や玄関横にもベンチを設置している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や御家族の写真を置き、安心して居心地よく過ごして頂けるように配慮している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりを設置している。居室前には表札・写真等を用意している。トイレの場所が分からない方もおられるので表示をしている。		